

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅲ (2単位)	3. 科目番号	SJMP3140								
2. 授業担当教員	中山 裕一郎										
4. 授業形態	演習、講義, 実技	5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・他科目との関係	「音楽」、「音楽Ⅱ」を履修していること。										
7. 講義概要	「音楽Ⅲ」では「音楽」、「音楽Ⅱ」で習得した技術の上に立って、実習や就職後の実践力の育成を視野に、保育現場の長期、短期の指導計画に音楽的活動を適切に盛り込むことができるようになるため、あらためて保育における音楽活動に関わる知識と技術を磨く。子どもが歌うとはどういうことか理解し、適切に教材を選ぶため、子どもの歌の特徴を理解し、正しく歌い、演奏し、楽器で遊び、身体で表現する。ピアノの弾き歌いおよび楽器の演奏と合奏の技術をさらに高め、表現の指導法についても深めていく。それらの学習を通して、個人の素養と、より高い保育・教育実践に必要な知識や技能を習得する。										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの歌、子どもの発声についての理解を深め、自ら正しく演奏できる。 2. 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択ができる。 3. 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動を企画、実践できる。 4. 弾き歌いなど保育者としての音楽能力を高める。 										
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回個人の進度に応じたピアノ演奏課題を提示します。 特に、保育者を志望する学生の皆様に対しては、それらの資格に必要なレベルの課題を提示します。 2. 第6回、第10回、第15回目の授業で、「弾き歌い」の小テストを実施致します。 就職後、各現場において子どもたちの前で演奏することに慣れるため、また課題を着実にこなすという目的のために実施します。 3. 器楽合奏および手作り楽器の製作などを通し、現場での実践に即した、考える授業づくりのための演習と致します。 										
10. 教科書・参考書・教材	<ol style="list-style-type: none"> ①井口太編著『最新・幼児の音楽教育』(音楽之友社) ②岡村弘他編著『子どもの歌厳選50曲』(KYODO-MUSIC) 										
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発声指導に関する知識を身につけ、自らも正しく演奏できるか。 2. 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択ができるか。 3. 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動を企画、実践できるか。 4. 弾き歌いなど保育者としての音楽能力を高められたか。 <p>○評定の方法</p> <p>以下の点を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択とその演奏発表</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動の企画と実践発表</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 弾き歌いの発表</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>4 授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table> <p>上記のほか、本学規定に定められている3/4以上の出席を単位認定の条件としている。</p>			1 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択とその演奏発表	総合点の30%	2 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動の企画と実践発表	総合点の30%	3 弾き歌いの発表	総合点の20%	4 授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)	総合点の20%
1 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択とその演奏発表	総合点の30%										
2 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動の企画と実践発表	総合点の30%										
3 弾き歌いの発表	総合点の20%										
4 授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)	総合点の20%										
12. 受講生へのメッセージ	この授業では、特に『音楽』『音楽Ⅱ』を修了した皆様が、実習中や就労後の保育における音楽的指導を行う場面を想定し、実践的な能力を身に付けていくために、器楽の演奏技術の向上を目指します。更に応用力を鍛えることにより、子どもを指導する技術を習得することが大きな目的です。常に自発的、積極的に授業へ参加して下さい！また、音楽Ⅱまでにおいて、音楽的技術の習得に不足感を得ている皆様は、この授業で、ピアノの演奏は勿論、代表的な子どもの歌の弾き歌い(両手で完全に)や、歌唱指導法の技術をしっかりと身に着けましょう。事前学習を必ず行ってから授業に臨んでください。一緒に頑張りましょう！										
13. オフィスアワー	最初の授業時間の時に通知いたします										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	<p>オリエンテーション：本科目の概要と学習目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽経験に関するアンケート調査 ・シラバスの解説 ・楽典理解度テスト ・ピアノ演奏技術に関する進捗確認に基づく「ピアノ」「弾き歌い」それぞれの課題の提示 	事前学習	一年次から使用している、子どもの歌曲集の中から、自分が弾ける程度の曲で、まだ練習したことのない曲を選び、練習しておく。								
		事後学習	第1回目に提示されたピアノ、弾き歌い各々の課題曲の練習を行う。譜読みを確実なものにして次回の授業に臨むこと。								
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノレッスン/弾き歌いのレッスン ・幼児音楽教育論①幼児の発達と音楽について ・発声法と新曲視唱①1回目 ・楽典の復習①音階と調性 	事前学習	第1回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。								
		事後学習	課題曲のピアノの練習を行う。音楽理論の学習内容の振り返りを行う。新曲視唱をなるべくたくさん行う。								

第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノレッスン/弾き歌いのレッスン ・幼児音楽教育論②音楽教育方法論 ・発声法と新曲視唱—2回目 ・楽典の復習②子どもの歌に多い4つの調性と、各調の主要三和音について。それ以外のコード、特にマイナーコードの学習とそれらを学習する意義について 	事前学習	弾き歌い発表演奏に向けて個々の課題曲を練習する。
		事後学習	課題曲のピアノの練習を行う。音楽理論の学習内容の振り返りを行う。新曲視唱をなるべくたくさん行う。
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノレッスン/弾き歌いのレッスン ・幼児音楽教育論③音楽的表現の指導 ・発声法とわらべうたの歌唱—3回目 ・楽典の復習③拍子とリズムに関して 	事前学習	第3回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	課題曲のピアノの練習を行う。音楽理論の学習内容の振り返りを行う。わらべうたをなるべくたくさん調べ、歌ってみる。
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノレッスン/弾き歌いのレッスン ・幼児音楽教育論②音楽教育方法論 ・発声法と新曲視唱—2回目 ・楽典の復習②子どもの歌に多い4つの調性と、それらの主要三和音について。それ以外のコード、特にマイナーコードの学習 	事前学習	教科書に記載されている子どもの歌などに、多く使われる調性を調べる。
		事後学習	課題曲のピアノの練習を行う。音楽理論の学習内容の振り返りを行う。新曲視唱をなるべくたくさん行う。
第6回	第1回目「ピアノ小テスト」教科書又は提示した課題曲の中から選択した楽曲を実施する。 ピアノは左右両手で演奏のこと（片手不可）	事前学習	ピアノ演奏発表に向けて課題曲の仕上げの練習する。
		事後学習	発表後の振り返りとして今後の自己課題を書き出す。
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノレッスン/弾き歌いのレッスン ・各季節の歌を季節ごとにまとめて表にする。 ・旋律楽器を主としたアンサンブルの実践（トーンチャイム、ベル、マリンバ、などを使用） 	事前学習	第6回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第7回目に指導された事柄を復習して練習する。アンサンブルで使う楽器についてその演奏の仕方を復習しておく。
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノレッスン/弾き歌いのレッスン ・コード伴奏の方法 ・幼児音楽教育の基本的な捉え方に関するレポートの作成（授業終了後に提出） ・子どもたちが演奏することを想定したアンサンブルスコアの作成（簡単な編曲） 	事前学習	幼児音楽教育の基本的な捉え方に関するレポートの作成。
		事後学習	第8回目に指導された事柄を復習して練習する。アンサンブルの楽譜になるべくたくさん触れる。
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノレッスン/弾き歌いのレッスン ・絵描き歌に挑戦する ・動物の動きを音楽や身体運動で表現する 	事前学習	第8回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第9回目に指導された事柄を復習して練習する。弾き歌い発表演奏に向けて課題曲を練習する。
第10回	第2回目「弾き歌い小テスト」教科書又は提示した課題曲の中から選択した子どもの歌の弾き歌いを実施する。 *保育の場を想定し、子どもに対する指導などを交えて実施。	事前学習	弾き歌い発表演奏に向けて課題曲の仕上げの練習する。
		事後学習	第10回目のテストでの振り返りとして。弾き歌いをしている最中に止まってしまう箇所などに特に留意し、歌うことに重きを置いて練習する。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノレッスン/弾き歌いのレッスン ・伴奏の型のヴァリエーションを増やす方法を学ぶ ・即興演奏への導入練習。情景や物語を表現する 	事前学習	主要三和音のカデンツを確認し、正確に弾けるようにする。
		事後学習	第11回目に行った即興演奏について、更に発展練習をする。
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノレッスン/弾き歌いのレッスン ・伴奏の型のヴァリエーションを増やす方法を学ぶ ・即興演奏への導入練習—2回目 ・指導案作成の説明（次週までの課題） 	事前学習	主要三和音のカデンツを確認し、正確に弾けるようにする。
		事後学習	指導案作成の説明（次週に提出）。
第13回	模擬保育を想定したGR発表—1回目「保育者と園児」手遊び歌の指導、絵本と音楽、身体運動を伴う音楽などあらゆる表現手段から保育内容を計画し発表する	事前学習	予めGR発表のテーマを相談し、実践する際の準備として簡易的な指導案を作成してくる。
		事後学習	発表の振り返りとして各々の役割において今後の課題を書き出す（次週提出）。
第14回	模擬保育を想定したGR発表—2回目「発表会での合奏の披露」簡易楽器の製作を交えた内容を実施	事前学習	予めGR発表のテーマを相談し、授業で使用する準備物を分担して作成、または持参する。
		事後学習	2回目のGR発表の振り返りとして各々の役割において今後の課題を書き出す（次週提出）。
第15回	第3回目「弾き歌い小テスト（環境設定・導入付き）」教科書又は提示した課題曲の中からピアノの為に書かれた小曲と、子どもの歌の弾き歌いを実施する。 ※より実践的な保育を想定して選曲を行うこと ※授業評価実施	事前学習	ピアノ演奏、弾き歌い発表演奏に向けて課題曲の仕上げの練習する。
		事後学習	15回の振り返りに基づいて補強すべき部分の手当てを行う。
<p>期末試験 筆記試験及びピアノ弾き歌いの実技試験をおこなう。</p>			

